

能登の岩礁生物モニタリング だより

第 3 号

2025 年 9 月 29 日

編集・発行：能登の岩礁生物モニタリングチーム・能登里海教育研究所

1 回目の岩礁生物モニタリングを実施しました

前回 4 月の調査では、外浦 7 海岸においてそれぞれ 5 つの調査地点を選定し、各調査地点に潮位と岩礁の高さに応じて 25cm 四方の「永久方形区」（同じ場所で毎回正確に記録を取れるよう目印をつけた区域）を 2～3 点設定しました。また、各方形区の枠内に見られる生物を調査し、写真撮影と GPS による位置の記録も行いました。

今回は各海岸の 2 か月後の様子を確認するため、1 回目のモニタリング調査を以下のスケジュールで実施しました。

<調査スケジュール>

2025 年 6 月 6 日（金）	調査した海岸	赤住（志賀町）、鹿磯、光浦、曾々木（輪島市）、長橋（珠洲市）
	参加者	岩崎、東出、荒川、佐藤
6 月 7 日（土）	調査した海岸	木ノ浦、狼煙（珠洲市）
	参加者	岩崎、東出、荒川、佐藤

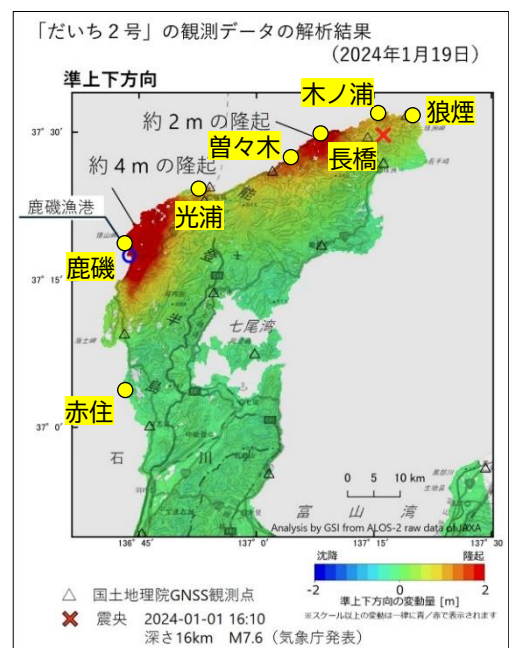
*本調査は海上保安署や地元漁業協同組合など、関係各所に事前に連絡をしたうえで実施しています

<調査の概要>

今回の調査では、外浦 7 海岸に設定した各 5 地点において、永久方形区の内外にみられる生物相の調査と水温・水質、相対的な潮位などの計測を実施しました。

調査予定日として設定した 2 日間（6/6-7）は好天に恵まれ、順調に調査を進めることができました。波浪等の影響からか、4 月に設定した方形区の一部でマーキングが消失していましたが、問題なく修復できました。

同じ海岸・同じ海面からの高さでも、方形区内外の小さな環境の違いによって、生物相の変化の状況も変わってくるのが予想されます。そこで今回は、水準器や型取りゲージを使って各方形区の平均的な傾きや、凹凸の程度も計測しました。



調査を行った海岸の位置（黄丸印）（「だいち 2 号」の観測データ（解析：国土地理院 原書データ所有：JAXA）
(<https://www.gsi.go.jp/common/000255834.jpg>) を加工して作成)

2 回目のモニタリング調査は 9 月前半を予定しています。長期的にモニタリングを実施することで、各調査地の生物相がどのように変わっていくのか、今から楽しみです。



方形枠周辺の生物相調査（木ノ浦海岸）



岩礁の凹凸を計測（赤住海岸）



調査記録を現場で確認（光浦海岸）



隆起した海岸で高く伸びる植物（光浦海岸）

「能登の岩礁生物モニタリング」とは？

2024 年 1 月の能登半島地震および同年 9 月の奥能登豪雨により、能登の豊かな自然も大きく変化しました。今後、能登の自然が元の状態に戻るのか、または新しい状態に変わっていくのかを科学的な方法で長期的にモニタリングすることは、能登の自然とどのように付き合っていくのかを考えていくために欠かせない情報になると考えます。

そこで、能登の海に関心をもつ内外の研究者を広くつなぎ、定期的に岩礁生物のモニタリング調査を実施することで地域の方に情報発信するとともに、研究者以外の方でも参加可能なモニタリング体制を構築することで、能登における環境教育・自然再生の推進にも貢献できたらと考えています。

2025 年 2 月に予備調査を、同年 4 月に 1 回目の調査を実施しました。

※「能登の岩礁生物モニタリング」の調査を行っている海岸の様子は、能登里海教育研究所災害復興デジタルアーカイブ「のと・きろくとまなびと」(<http://ddarchive.notosatoumi.com/>)からもご覧いただけます！

